

命じられる神

2022/3/13

列王記上17章1節

- 「ギレアドの住民である、ティシュベ人エリヤはアハブに言った。『わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず、雨も降らないであろう。』」

• エリヤの登場

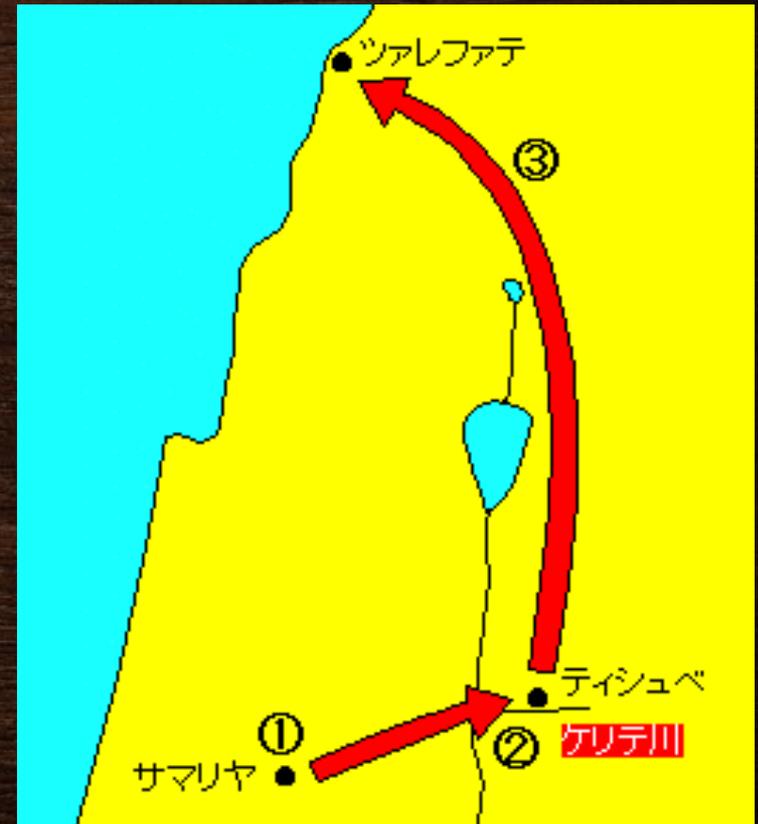
- 前9世紀前半に北王国イスラエルで活躍した預言者
- 「飢饉が主によるものである」
- アハブ王の前で臆することなく堂々と宣言した

挑 戦

- エリヤの言葉はバアルに対する挑戦
- “バアル神” 雨と豊かな収穫をもたらす神
- エリヤの願いは、「**主こそ真の神である**」ことを知らせたかった
- アハブ王 → 「オムリの子アハブは彼以前のだれよりも主の目に悪とされることを行なった。」
(列王上16:30)
- 最悪の王で、強情？
- エリヤは、ただ神だけが唯一の頼み

神に従うエリヤの行動

- 彼の出身地ティシュベは片田舎の町
- ヨルダン川の東岸の支流であるケリト川のほとり
- ①サマリアのアハブ王の前で宣言
– 王に命を狙われて危険が迫る
- ②**神の命令**でケリト川に移動
- ③さらにシドンのサレプタに移動



列王上17章2～7節

- 主の言葉がエリヤに臨んだ。「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。**わたしは鳥に命じて**、そこであなたを養わせる。」エリヤは主が言われたように**直ちに行動し**、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに行き、そこにとどまった。数羽の鳥が彼に、朝、パンと肉を、また夕べにも、パンと肉を運んで来た。水はその川から飲んだ。しばらくたって、その川も涸れてしまった。雨がこの地方に降らなかったからである。

「身を隠せ」

- エリヤはアハブから命を狙われた
- 「身を隠せ」その場所が人里離れた所
- 「ハレルヤ！感謝します」とは言えない場所？
- 鳥が自分を養ってくれる？　これは信じがたい…
- カラスはモーセ律法では、食べてはならない忌むべき鳥（レビ記11:15）
- カラスの「言葉」の研究　41種類の「言葉」
- 鳥がおる所はだいたい安全
- 「エリヤは主が言われたように**直ちに行動し**」た
—堅い決意のもとに行動

烏に養われたエリヤ

- 神第一にする
 - 自分の考え・経験は横に置く
- 烏に命じて自分を養ってくださる神様
 - 身近に体験し祈った
- 烏に命じてパン・肉を運ばせた
 - 肉はどのように調理してあったのか…石で焼いた？
- 神様は面白い方です



列王上17章 8～16節

- また主の言葉がエリヤに臨んだ。「立ってシドンのサレプタに行き、そこに住め。わたしは一人のやもめに命じて、そこであなたを養わせる。」彼は立ってサレプタに行った。町の入り口まで来ると、一人のやもめが薪を拾っていた。エリヤはやもめに声をかけ、「器に少々水を持って来て、わたしに飲ませてください」と言った。彼女が取りに行こうとすると、エリヤは声をかけ、「パンも一切れ、手に持って来てください」と言った。彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。わたしには焼いたパンなどありません。ただ壺の中に一握りの小麦粉と、瓶の中にわずかな油があるだけです。わたしは二本の薪を拾って帰り、わたしとわたしの息子の食べ物を作るところです。

列王上17章 8～16節

- わたしたちは、それを食べてしまえば、あとは死ぬのを待つばかりです。」エリヤは言った。「**恐れてはならない**。帰って、あなたの言ったとおりにしなさい。だが、まずそれでわたしのために小さいパン菓子を作って、わたしに持って来なさい。その後あなたとあなたの息子のために作りなさい。なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の面に雨を降らせる日まで／壺の粉は尽きることなく／瓶の油はなくならない。」やもめは行って、**エリヤの言葉どおりにした**。こうして彼女もエリヤも、彼女の家の者も、幾日も食べ物に事欠かなかった。主がエリヤによって告げられた御言葉のとおり、壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくならなかった。

「そこに住め」

- 「立ってシドンのサレプタに行き、そこに住め。」
 - 旱魃（かんばつ）で、お腹はすき、喉は渇き、ハアハア言いながら…
- シドンのサレプタは悪女イゼベルの故郷
- 「わたしは一人のやもめに命じて、そこであなたを養わせる」
 - 「一時滞在」ではなく「長期滞在」 何かが起きる
- 烏と同じように頼りない異邦人のやもめ
- 「彼は立ってサレプタに行った。」
 - 全く無条件で従った

水とパンの要求

- 「器に少々水を持って来て、わたしに飲ませてください」。 「パンも一切れ、手に持って来てください」
 - やもめの神経を逆なでするようなエリヤの言葉
- エリヤの慎重な態度
 - このやもめが本当に主が言われたやもめなのだろうか？
そのことを確認している
- やもめは「あなたの神、**主は生きておられます**」
(17:12)
- エリヤがアハブに言った言葉。「わたしの仕えているイスラエルの神、**主は生きておられる。**」
(17:1)

コロナ禍での生活苦 無料食品配布に長い行列



「今日、子供と食べるお米がない・・・ 死を考えたが子供がかわいそう・・・ 子供には腹いっぱい食べさせてやりたい・・・」今は無料の食品配布で何とか命をつないでいる状態。（母親と娘の二人暮らし）

やもめは、エリヤの言葉どおりにした

- 神は貧しいやもめの生活に無関心ではない
 - あらゆるものを失ったと感じたときにエリヤを送られた
- 神の御言葉を**第一にすると奇跡**が起きます
- 「確かに言っておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないうで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。」（ルカ4:25-26）
- エリヤは**やもめに命じられる主**によって養われた

御言葉のとおり

- 「主がエリヤによって告げられた御言葉のとおり、壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくならなかった。」（17:16）
 - 彼女もエリヤも、彼女の家の者も養われた
 - 神様は大きな倉にドカーンといっぺんに「粉や油」を与えられたのではない…
- 「エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと**熱心に祈った**ところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。」（ヤコブ 5:17）
- 【われらの日用の糧を今日も与えたまえ！】
 - エリヤもやもめ家族も心合わせて毎日**祈った**…

絶望する時、神の救いがある

- 彼女は人間として最も弱い時、最低の状態の時
「あとは死ぬのを待つばかりです」という時に救われました
- 人間の予想も出来ないところで行われるのが**神様の業**です
- それがまさしく“**イースター・復活**”です
- イエス様に出会い、信じ受け入れた時に救いが与えられます
- エリヤとは「**主は私の神である**」との意味です
– エリヤが祈って学び得たものは、全き信頼と服従でした

この物語が語るものは

- わたしたちの信じている「**主は生きておられる**」
- 神様がわたしたちのすべての必要をご存知である
- 「神」の言葉通りに実行する